

日本原子力学会 第 111 回倫理委員会
議事録

1. 日 時：2019 年 4 月 17 日（水）13:30～17:30
2. 場 所：日本原子力学会事務局会議室
3. 出席者：大場委員長、三村副委員長、神谷幹事、伊藤委員、金山委員、菅原委員、中野委員、
中村委員、福家委員、藤澤委員（委員 13 名中 10 名出席） オブザーバー 辻氏
4. 資 料：
 - 倫 111-1 日本原子力学会 第 110 回倫理委員会 議事録(案)
 - 倫 111-2-1 倫理委員会活動計画
 - 倫 111-2-2 倫理委員会役割分担表
 - 倫 111-3 2019 年春の年会企画セッション アンケート結果
 - 倫 111-4 学会誌記事投稿 その 2 原子力安全のための組織文化と倫理
 - 倫 111-5 2019 年秋の大会企画セッション提案書案
 - 倫 111-6 欠番
 - 倫 111-7 欠番
 - 倫 111-8 次回倫理規程改定に向けた検討の進め方について（案）
 - 倫 111-9-1 最近の品質不正問題等について
 - 倫 111-9-2 鉄道重大インシデント調査報告書説明資料（抜粋）

5. 議事概要：

(1) 前回議事録の確認

神谷幹事から資料 111-1 に基づき前回議事録（案）について説明があり、特に異議なく了承された。なお、議事に関連して以下の議論があった。

- ・委員の退任が続き、現時点で委員は 13 名である。この状況を受け、委員の補充のための働き掛けをしていくこととし、事業者、JANSI、大学関係者を通じて打診をしていくこととした。
- ・今回、学会誌に投稿した「原子力安全のための組織文化と倫理」について、その 1、その 2 それぞれの別刷りを購入することとしたので、有効に活用していく。
- ・北陸電力との今年度の委託業務について、総務委員会での了承が得られた。
- ・事例集の在庫保管に関しては、学会事務局と適宜調整をしていく。

(2) 倫理委員会の活動計画について

三村副委員長から資料 111-2-1 及び 111-2-2 に基づき説明があり、以下を確認した。

- ・活動計画について、今年の 12 月に技術倫理協議会のシンポジウムが開催されるため、追記する。
- ・次回の倫理研究会を 6 月開催予定としているが、研究会の内容を検討した上で、日程を再設定することとする。
- ・役割分担について、2019 秋の企画セッションは菅原委員が主担当、副担当は金山委員とし、

委員長が適時フォローすることとする。次々回の研究会については、テーマによって講師の
人選等もあるため、テーマを検討する中で主担当を決めることとする。

- ・2020年春の年会は、福島大での開催でもあり、企画セッションの内容を早めに詰めていく。
本件は中野委員が主担当。

(3) 2019年春の年会企画セッションの結果概要

三村副委員長より111-3に基づき、2019年春の年会企画セッションのアンケート等の結果に
ついて報告があった。

- ・質疑応答も含めて、結果の概要を作成することとする。
- ・アンケートの結果、全体的には好意的な意見が多い一方、質疑応答の時間が少なかったとの
指摘があった。
- ・また、今回、アンケートで倫理規程改定に向けた意見を求めたが、倫理規程の改定が頻繁に
行われることが好ましくないとの意見があった。
- ・倫理規程の改定は、改定プロセスも通して関係者の議論を深め、周知の機会を増やすことで
浸透させていくこととしているが、これが十分ではないことが要因と考えられる。
- ・マンパワーがあれば、倫理委員会が部会等に出向いて説明もできるが、実際には難しい。こ
のような指摘に対する回答等を倫理委員会のメルマガ等で発信していく方法も考えられる。
実施方法は別途確認することとして、回答案を委員長が作成することとする。
- ・倫理委の企画セッションでは、少なくともここ数年は倫理規程そのものをテーマに取り上げ
ていなかったのが、今回は改定に向けた提起としてよかったと思う。アンケートでも具体的
に質問項目を追加したので、改定に向けては、このようなプロセスを経ていくことが重要と
思う。
- ・学会活動はボランティアな活動が基本だが、その本質が理解されていないので活動が活性化
していないとの意見があった。これについては、理事会でも議論してもらう必要があるの
ではないか。

(4) 学会誌記事投稿 その2 原子力安全のための組織文化と倫理

福家委員より資料111-4に基づき、学会誌への投稿が完了したことが報告された。

- ・記事中の肩書きは、それぞれ当時の肩書きであるため、その旨を付記した方が良いとのコメ
ントがあり、今後の校正の段階で対応することとした。

(5) 2019年秋の大会企画セッションについて

菅原委員より資料111-5に基づき、2019年秋の大会企画セッション提案書が示され、以下を
確認した。

- ・2名の講師との提案であったが、時間の都合から1名として第1候補者に打診することとす
る。菅原委員の趣旨説明が5分としてあるが、15分程度の時間をとることとする。
- ・原子力技術とAIについて講演実績のある出町委員に、総合討論に参画していただくのも一案
である。
- ・提案書については、セッションの具体的な内容はあまり限定しないように修正する。

- ・秋の大会の企画セッションとともに、フォローアップとして、同じテーマによる研究会を合わせて検討していくこととした。

(6) 技術倫理協議会シンポジウムについて

中野委員より、前回に引き続き、技術倫理協議会からの依頼事項であるシンポジウムでの講演者とテーマを5月13日までに提示するよう求められている旨の紹介があり、議論を行った。

議論の結果、原子力の研究開発分野として、核融合分野の開発計画立案と社会連携活動に従事されている専門家を候補として推薦する方向とした。

(7) 研究機関の安全文化について

研究機関の安全文化について、委員の所属機関で研究機関をもつメーカー等からのヒアリングを通して議論を深めることとしており、今回は、福家委員からメーカーの研究所を中心とした安全文化の紹介があり、意見交換を行った。

今後の進め方について、以下のコメントがあり、担当である中村委員と伊藤委員で引き続き検討を進めていくこととした。

- ・テーマとして少しずつまとめていけるように進め方を検討する。外部講師を招いて委員による研究会を企画してもよい。
- ・議論を円滑に進めるため、論点を明確にしてのヒアリング等を行った方がよい。
- ・委員会での議論は、時間も限られているので、進め方等をあらかじめ十分に検討する。

(8) 次回倫理規程改定に向けた検討の進め方について

神谷幹事から111-8に基づき、改定の進め方について説明があり、提案どおり、①本年8月までは改定案について委員それぞれが論点や改定案の洗い出しをし、②その後、分担を決めるなどして1年程度かけて委員会で検討を行い、③2020年8月頃にパブコメ、2020年秋の大会企画セッションでも議論、④2021年1月の理事会承認で改定として進めていくこととした。①については、メールにより委員会内に依頼することとした。

関連して、以下の議論があった。

- ・改定検討は今後とも継続していくが、次回改定の検討に当たっては、前文と憲章は今後の改定は必要ないというぐらいの気概をもって検討をしたい。
- ・2021年は倫理規程制定20年、震災から10年の年であり、通常の研究会とは別に、節目のシンポジウム等の開催について検討していく。

(9) 最近の品質不正問題等について

神谷幹事から資料111-9-1および資料111-9-2に基づき、最近の状況について紹介があり、今後の研究会等の企画に反映していくこととした。

6. 次 回：第112回 2019年6月17日（月）13:30～17:00@原子力学会事務局会議室

以上